

CODE 海外災害救援市民センター
2024年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

* 終了予定期は、一応の目標であるが、その時点で継続の必要性があれば、理事会の協議を経て決定する。

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003年	2026年度末
	2	中国・四川省地震救援プロジェクト	2008年,	2024年度末
	3	ウクライナ・ロシア避難民支援	2022年	2024年度末
	4	トルコ・シリア地震救援プロジェクト	2022年	2025年度末
●新規プロジェクト	5	能登半島地震救援プロジェクト	2024年	2025年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の2500世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は550世帯(2024年3月現在)。
実施内容	<p>アフガニスタンのタリバン統治の状況を鑑みて以下を実施する。</p> <p>【2024年度の計画】</p> <p>1. ぶどう畑再生支援(レーズン輸入販売) 交信が途絶えていたカウンターパートFさんと、再びにコンタクトが取れた事で、レーズンの輸入の再開を検討する。</p> <p>2. 避難民支援 • Sさんへの食糧支援 「MOTTAINAI やさい便」や神戸市の委託を受けているNPOからの食糧提供を継続し、Sさん家族とCODE関係者との食事会なども企画するなど、彼らの暮らしを見守っていく。</p> <p>3. アフガニスタンの情報発信 • 村井理事にアフガニスタンの文化や暮らしについて話してもらう機会(寺子屋または、○○と国際協力)を作る。</p>

事業の目標と 終了予定時期	タリバンによる政変により中断していたが、これまで通り輸入するレーズンの総量の目標を1tに定め、事業終了目標を2026年度末とする。
------------------	---

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト/新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の 範囲及び予定 人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民 湖北省武漢市民
実施内容	<p>【2023年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔での光明村の状況をフォローアップ コロナ禍の影響を見つつ、四川への渡航を再開し、光明村周辺の観光開発(集いの広場や竹林、小川などの整備)の状況、村民委員会による農家樂再開の動きをフォローする。 ・現地NGOとの連携強化 四川大地震以降連携してきたNGO備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)と災害時の連携だけでなく、研修などを通じて防災・減災の一助を担う。 ・日中NGOボラティア研修交流事業の再開 本事業では、これまでに29名(うち4名は国内)の学生など若者が四川の被災地で学ぶ機会を提供してきた。このうち、中山迅一さん(NPO法人まなびと代表)、堀之内(成安)有希さん(CODE理事)、柳瀬彩花さん(2023年3月追手門学院大学卒、現在気仙沼地域おこし協力隊)、原田梨央さん(長崎大学大学院グローバルヘルス研究科、次期青年海外協力隊ベナン隊員)今もCODEの活動に協力、連携していただいている。 2024年度は、コロナ禍など現地の状況を見つつ、2025年春頃に再開し、高校生、大学生などの若者が海外の被災地で直に学ぶ機会を提供する。 <p>* 2024年度の主な動き:</p> <p>5/2 四川大地震16年の共同通信の取材(吉椿) 5/30 中国人大大学・中国災害防御協会の専門家と意見交換(室崎代表、吉椿)</p>
事業の目標と 終了予定時期	2018年度で四川大地震後に、CODEが伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家樂」の運営を軌道に乗せること、そして現地のNGOとの防災・減災の学び合いに感染症も加えた学び合いの場を積極的に作っていく。また、国際アライアンス「IACCR」を通じて、感染症だけでなく災害支援のネットワークを充実させていく。終了予定時期は2024年度末にしているが、必要であれば理事会の議論を経て再考する。

事業名	1-(3) ウクライナ・ロシア支援
実施日時	2022年2月24日～継続中
実施場所	兵庫県神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち約100名
実施内容	<p>2022年2月24日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きた。直後に国外に避難した人は500万人を超え、国内でも700万人が今も避難生活を強いられ、未だ終息の兆しが見えない。戦争の長期化に伴い避難民の人たちも日本に留まらざるを得ない状況や一時帰国した家族も戻っているなどの状況が続いている。また、日本の行政による支援も停止し始めており、避難者たちは自立を強いられるような状況にある。他方で避難民自身もウクライナのために寄付や物資提供など行っている事から、協働の可能性も検討する。</p> <p>よって、2024年度も、能登半島地震支援の状況を見つつ、この「MOTTAINAI やさい便」の再開や「子守りボランティア」などを通じてウクライナ避難者の暮らしに寄り添いつつ、就労支援など避難民のニーズにその都度対応していく。</p> <p>【2024年度の計画】</p> <p>① 「MOTTAINAI やさい便」</p> <p>スタッフ2名と草地としこさんが、週1回、車輛2台で17世帯42名に配達しているが、学生ボランティアさんにも子守りボランティアだけでなく、やさい便の活動にも関わり、直接出会う機会を提供していく。今年度は、兵庫県国際交流協会のウクライナ避難民地域共創事業助成金に申請し、野菜便や子守りボランティアの資金として活用する。</p> <p>② 「子守りボランティア」</p> <p>現在、学生ボランティア5～6名が週4回、4世帯で実施しているが、2024年度は新規の学生ボランティアの確保や他の災害ボランティアとの交流、ボランティア間の情報共有を目的に定期的なミーティングも実施していく。</p> <p>今年度は、兵庫県国際交流協会のウクライナ避難民地域共創事業助成金に申請し、野菜便や子守りボランティアの資金として活用する。</p> <p>③ 「農業ボランティア」</p> <p>現在、中断しているが、ウクライナの方の仕事の状況を見つつ、必要に応じて再開を検討する。</p>

	<p>* 2024 年度の主な動き</p> <p>4/11 ウクライナ避難民夫婦が映画「港に灯がともる」(2015 年 1 月公開に 出演。撮影に同行(吉椿)</p> <p>4/18 子守りボランティア説明会(島村さん、那須さん、近藤さん他 3 名、山村)</p> <p>4/30 ウクライナ避難民の相談(Lilia さん、吉椿)</p> <p>5/12 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>5/13 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>5/17 子守ボランティアミーティング(島村さん、山村)</p> <p>5/19 子守ボランティア(島村)</p> <p>5/30 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>6/3 子守りボランティア定期ミーティング(島村さん、山村)</p>
事業の目標と 終了予定期	ウクライナの戦争が長期化していることから、一応の終了目標は 2024 年度末とする。

事業名	1-(4) トルコ・シリア地震支援
実施日時	2023 年 2 月 6 日～継続中
実施場所	トルコ共和国ガジアンテプ県、カフラマンマラシュ県、アディヤマン県、ハタイ県など
受益対象者の 範囲及び予定 人数	仮設住宅に居住する被災者約 1000 人 ハタイ県デフネの被災者約 50 人
実施内容	<p>【2024 年度の計画】</p> <p>① 現地 NGO との耐震普及プロジェクト</p> <p>ハタイの NGO「Dayanışma Gönülleri (連帯ボランティア)」は、自ら設立した協同組合の共有スペースの建設を検討していた事から、北茂紀さん(北茂紀構造建築事務所)の協力を得て木造建築の耐震ワークショップを計画していたが、農家たちの人口流出を防ぐために急を要しており、資金調達ができた事から北さんの提案したデザインを参考に自分たちで実施する事となった。よって、その他の NGO の動きなども把握し、現地と協議の上、耐震などのプロジェクトを検討する。</p> <p>② 「子どもと家族のケアセンター」の運営のフォロー</p> <p>CODE は、上述の NGO、ACEV と建設した「子どもと家族のケアセンター」の運営を見守りつつ、機会があればセンターを活用した交流も検討する。</p> <p>③ トルコ・日本ユースボランティア交流</p> <p>これまでオンラインやコープこうべハート基金のご支援によってトルコと日本のユースボランティア交流を行ってきた。引き続きオンラインなどを活用してトルコのボランティアたちと日本の若者たちとの交流を通して、学び合う機会を作る。</p>

	<p>* 2024 年度の主な動き:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/10 トルコ地震プロジェクトミーティング (Serbay さん、Merve さん、北茂紀さん、 村井理事、島村さん、山村、吉椿) ・5/24 FM 茨木放送で「トルコ・シリア地震」の報告 (吉椿) トルコ地震プロジェクトミーティング (Serbay さん、Merve さん、北茂紀さん、 村井理事、島村さん、山村、吉椿)
事業の目標と 終了予定期限	今後、ハタイ県の新規プロジェクトを進めていく事から一応の終了目標は 2025 年度末とする。

事業名	1-(5) 能登半島地震
実施日時	2024 年 1 月 1 日～継続中
実施場所	石川県能登地方(七尾市中島町小牧、珠洲市、輪島市、穴水町など)
受益対象者の 範囲及び予定 人数	七尾市中島町小牧地区の被災住民約 200 人 珠洲市・輪島市の自主避難所や仮設住宅に居住する被災者約 1000 人
実施内容	<p>【これまでの経緯と 2024 年度の計画】</p> <p>2014 年 1 月 1 日に石川県珠洲市を震源とした M7.4 の地震が発生し、能登半島の珠洲市、輪島市、能登町、七尾市などが甚大な被害を受けた。CODE は姉妹団体である被災地 NGO 協働センターと連携して、翌 2 日に七尾市中島町小牧の避難所「中島町コミュニティセンターに西岸分館」に食糧や燃料などの救援物資を提供した。その後も、同地区の集会所を拠点に被災地 NGO 協働センターのスタッフが常駐し、ボランティア受け入れ、足湯、家屋の片付け、物資配布、炊き出しなどの支援を展開している。</p> <p>また、兵庫県防災士会は食糧提供や足湯ボランティア隊の運転手、復興制度などの情報提供などで連携していただいている。</p> <p>そして、山村を中心に「やさしや足湯隊」を結成し、大学生などのボランティアを中心に珠洲市、輪島市、穴水町などで活動してきた。</p> <p>公助から取りこぼされている自主避難所やボランティアの少なさなどもあり、中長期的な支援が今後も必要な事から、引き続き CODE としても能登地震支援を継続する。</p> <p>なお、学生スタッフの島村優希さんを 4 月からアルバイトとして雇用(週 2, 3 日)し、能登やトルコなどの支援に尽力していただいている。</p> <p>2024 年度も引き続き中島町小牧集会所を拠点に物資の配布や家屋の片付けや災害ゴミの搬出、仮設住宅での見守りや足湯ボランティアなどを被災地 NGO 協働センターと連携して行う。また、「やさしや足湯隊」も引き続き珠洲、輪島などの自主避難所や仮設住宅での足湯ボランティアを派遣し、被災者一人ひとりの声に耳を傾ける。</p> <p>* 主な動き</p>

	<p>4/19-20 能登派遣(吉椿)</p> <p>4/20-21 能登派遣(村井理事、山村)</p> <p>4/26-29 第7次足湯隊(学生など4名)に同行(山村)</p> <p>4/27 能登半島地震募金活動(神戸駅)(島村さん、岩尾さん)</p> <p>5/3-6 第8次足湯隊(学生など7名)に同行(吉椿)</p> <p>5/26 能登半島地震報告会を開催 (被災地 NGO 協働センター、兵庫県防災士会と共に)</p> <p>5/30 中国大学・中国災害防御協会の専門家と意見交換(室崎代表、吉椿)</p> <p style="text-align: right;">* 1-(2)に再掲</p> <p>5/31 大阪大学人間科学部共生社会論特講1で能登半島地震の講義(吉椿)</p> <p>5/31-6/2 第9次足湯隊(学生など8名)に同行(村井理事、島村さん、山村)</p> <p>6/7-9 第10次足湯隊(学生など11名)に同行(岩尾さん、玉地さん)</p> <p>7/19 神戸学生青年センターで能登半島地震の報告(吉椿)</p>
事業の目標と 終了予定時期	復興のスピードが非常に遅い事もあり、一応の終了予定時期を2025年度末とする。

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 事務局体制の充実化
実施日時	2013年11月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	数名
実施内容	<p>2024年度は、CODE事務局は村井理事、細川さん(会計)山村太一(2023年5月からCODEスタッフ)、吉椿に加え、学生スタッフの島村優希さん(大阪大学大学院修士1年)や他の新規学生ボランティアなどの協力も得ながら運営していく。なお、1年半、学生スタッフとしてCODEの活動に尽力していただいた植田隆誠さん(関西学院大学卒)は、2014年4月からJICA社会基盤都市・地域開発グループに入構し、国際協力の道へと進んだ。</p> <p>2024年は上記メンバーに加えて、4月から神戸学院大学社会防災学部2年生の玉地紘樹さん、岩尾正貴さんが学生インターンとして週1回、事務所業務を経験している。また、夏季に台湾の暨南国际大学(南投県)台北医疗大学(台北市)や神戸女学院大学の留学生などからインターン生の受け入れ要請も来ている。</p>

事業名	2-(2) NGO ことはじめ
実施日時	随時

実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や一般など
実施内容	現在、能登地震支援やトルコ・シリア地震支援などの災害救援事業にかかる若者が増えてきている事から、今年度後期に「NGO ことはじめ」を 1 回実施し、若者たちと NGO を学ぶ機会を作る。インターン学生の岩尾さん、玉地さんを中心に、村井理事、榛木理事を講師に 2 回シリーズで検討していく。

事業名	2-(3)「○○と国際協力」
実施日時	毎月第 3 木曜日
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014 年 3 月より「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催してきた。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらうという主旨で、2019 年度までの 7 年間で計 59 回を開催し、のべ 801 名にご参加いただいた。</p> <p>2020 年度からは「○○と国際協力」という形でリニューアルする事となり、以下の通り年 1 回のペースで実施した。2022 年度は、「若者と国際協力～青年海外協力隊と農業～」と題して若者を中心に開催した。</p> <p>【2024 年度は開催する予定はないが、状況によっては開催を検討する。】</p>

事業名	2-(4)CODE 未来基金
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働くことをめざす若者、若干名。
実施内容	<p>【2023 年度の計画】</p> <p>2023 年度は、山村や島村さんなど学生スタッフなど若い人たちを中心にウクライナ避難民支援「子守ボランティア」やトルコ・シリア地震の活動を行ってきた。また 1 月の能登半島地震での学生スタッフ 3 名が被災地での活動に従事した。スタッフの山村にも、新聞やテレビの取材対応 やラジオ出演、講義依頼なども増えてきている。</p> <p>2024 年度は、山村と学生スタッフの島村さん、学生インターンの玉地紘樹さん(神戸学</p>

院大学2年生)、岩尾正貴さん(神戸学院大学2年生)などを中心にトルコ・日本ユースボランティア交流や能登半島地震支援の足湯隊を通じて、新たな学生ボランティアさんと共に活動していく。

◎2024年度の計画

1. ウクライナ避難民支援

現在、ウクライナの子守りボランティアには、13名の高校生・大学生が関わっている。子守ボランティアを通じて、ウクライナ避難民に直接会う場や避難民の状況を理解する勉強会などの機会を作る。現在の訪問世帯は、4世帯(避難2世帯、避難者受け入れ2世帯)。

今年度は、子守りボランティアの情報や感想の共有として定期的にミーティングを開催していく。

今年度は、兵庫県国際交流協会のウクライナ避難民地域共創事業助成金に申請し、野菜便や子守りボランティアの資金として活用する。

・子守りボランティア…毎週(月)オクサーナさん、(火)マリアさん、

(水)ソフィアさん(4月末に一時帰国)、(日)オルガさん

2. トルコ・シリア地震

2023年度はトルコの若いボランティアと交流し、学び合う事を目的として、オンライン交流を行ってきた。また、copeこうべハート基金のご支援で「トルコ・シリア地震 トルコ・日本ユースボランティア交流」として、那須さん、近藤さん、植田さん、島村さん、山村の5名がトルコでボランティア交流を行った。

2024年度もトルコのユースとの交流をオンラインなどで継続し、若者たちがトルコの被災地で活動する事も検討する。

3. 令和6年(2024年)能登半島地震

昨年度1月からCODE未来基金の学生ボランティアたちは積極的に能登半島地震救援に関わっている。1月は神戸にて募金活動、2月から山村を中心に「やさしや足湯隊」として若者・学生などが能登でボランティア活動を行ってきた。2、3月は週一回程被災地を訪れており、今年度も継続して活動していく。

* 主な動き

* 1-(3) にも再掲

4/8 神戸学院大学生へのインター説明会(玉地さん、岩尾さん、吉椿)

4/18 子守ボランティア説明会(島村さん、那須さん、近藤さん他3名、山村)

4/23 第8次足湯隊説明会を開催(山村、吉椿)

4/26-4/29 第7次足湯隊に同行(山村)

4/27 能登半島地震街頭募金(神戸駅)(岩尾さん、島村さん)

5/3-5/6 第8次足湯隊に同行(吉椿)

	<p>5/12 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>5/13 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>5/17 MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」に出演(南さん、山村) 子守ボランティアミーティング(島村さん、山村)</p> <p>5/18 FM わいわい「街ブラ～人と街とくらしを探る」に出演(山村)</p> <p>5/19 子守ボランティア(島村)</p> <p>5/21 第 10 次足湯ボランティア隊事前ミーティング(南さん、玉地さん、山村)</p> <p>5/22 第 9 次足湯ボランティア隊事前ミーティング(南さん、島村さん、山村)</p> <p>5/24 トルコ・シリア地震 PJ ミーティング(島村さん、山村、吉椿、村井理事)</p> <p>5/26 能登半島地震報告会(島村さん、村井理事、山村、吉椿)</p> <p>5/29 兵庫県立大学商科キャンパス「災害支援とボランティア」で講義(山村)</p> <p>5/30 子守ボランティア(島村さん)</p> <p>5/31-6/2 第 9 次足湯ボランティアに同行(島村さん、山村)</p> <p>6/3 子守リボランティア定期ミーティング(島村さん、山村)</p> <p>6/6 近畿ろうきん寄付金贈呈式に出席(島村さん、吉椿)</p> <p>6/7-9 第 11 次足湯ボランティア隊に同行(玉地さん、岩尾さん、南さん)</p> <p>4. 若者主体の議論の場「阪神・淡路大震災 30 年を機に」 阪神・淡路大震災から 30 年となる 2025 年に向け、若者主体で震災・紛争などの現在の世界をとりまく状況について考え、議論する場を作る。また 30 周年を踏まえた若者中心の企画をたてる。</p>
--	--

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。 現在、HP などの英語翻訳ボランティアは 1 名、新年度も引き続きボランティアの力を借りながら英語の情報発信(HP、FB)を充実させる。2023 年に中国人インターの李小雨さんに、HP の中国四川 PJ のページを英語にしていただいた。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》社会防災テーマ型実習 C (* 2024年度から神戸学院大学(社会防災特別講義Ⅱ)から名称変更)
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約20名
実施内容	<p>・「現代社会学部」の後期授業「」での講師派遣「社会防災テーマ型実習 C」</p> <p>前年度同様に後期(火曜3限、全15回)の講義を吉椿(9)、斎藤容子さん(3)、頬政良太さん(3)を講師としてオムニバス形式で講義を実施する。</p> <p>* 授業計画</p> <p>第1回(9/24)ガイダンスと世界の災害(吉椿)</p> <p>第2回(10/1)NGOとボランティア(吉椿)</p> <p>第3回(10/8)日本の災害 NGOとボランティア(頬政さん)</p> <p>第4回(10/15)海外のNGO(吉椿)</p> <p>第5回(10/22)市民社会とNGO(吉椿)</p> <p>第6回(10/29)現代社会とジェンダー(斎藤さん)</p> <p>第7回(11/5)緊急支援から復興・防災へ(頬政さん)</p> <p>第8回(11/12)コミュニティ防災(斎藤さん)</p> <p>第9回(11/19)災害とフィールドワーク(吉椿)</p> <p>第10回(11/26)NGOを作るワーク①(吉椿)</p> <p>第11回(12/3)NGOを作るワーク②(頬政さん)</p> <p>第12回(12/10)NGOを作るワーク③(吉椿)</p> <p>第13回(12/17)NGOを作るワーク④(斎藤さん)</p> <p>第14回(12/24)NGOを作るワーク⑤(吉椿)</p> <p>第15回(1/7)ポスターセッション(吉椿)</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》親和大学(国際ボランティア論) * 2023年度より共学となり、名称が親和女子大学から親和大学に変更になった。
実施日時	4月から7月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他課題提出型授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生173名
実施内容	2020年度前期(月曜2限、全15回)より「国際ボランティア論」の講義を受託している。

	<p>講師は、坂西卓郎さん(PHD 協会)(5)、斎藤容子さん(関西学院大学)(4)、吉椿(CODE)(5)の三者で担う。2022年度も同様に行う。受講生は、日本人だけでなく、中国、ベトナム、ネパール、ミャンマー、バングラデシュなど多国籍の学生。</p> <p>*【国際ボランティア論】授業計画</p> <p>第1回(4/8)ガイダンス(梁さん) 第2回(4/15)国際協力概論(坂西さん) 第3回(4/22)ボランティアとは(吉椿) 第4回(4/29)開発教育と参加型学習(坂西さん) 第5回(5/6)世界と国内の難民(坂西さん) 第6回(5/13)国際協力と多文化共生(坂西さん) 第7回(5/20)当事者から学ぶ(坂西さん) 第8回(5/27)防災と国際協力(斎藤さん) 第9回(6/3)緊急支援・復興支援(斎藤さん) 第10回(6/10)ジェンダー視点から見える途上国災害(斎藤さん) 第11回(6/17)異文化理解と援助(吉椿) 第12回(6/24)NGOとは(吉椿) 第13回(7/1)国際協力と若者(吉椿) 第14回(7/8)SDGsと災害(吉椿) 第15回(7/22)ボランティアから専門家へ(斎藤さん)</p>
--	--

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生30名
実施内容	<p>2020年前期(火曜1限、全15回)より始まった「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が担っている。2024年度も、ゲストスピーカーとして斎藤容子さん(4)にも講義していただいている。また、山村など若者にも講義をしてもらう機会を作る。</p> <p>*【ボランティア論Ⅱ 授業計画】</p> <p>第1回(4/9)ガイダンス(吉椿) 第2回(4/16)災害ボランティアについて(吉椿) 第3回(4/23)災害ボランティアセンター(吉椿) 第4回(5/7)避難所運営とボランティア(斎藤さん) 第5回(5/14)避難所ワーク「HUG」(斎藤さん)</p>

	<p>第6回(5/21)復興支援とボランティア(吉椿)</p> <p>第7回(5/28)足湯ボランティア(吉椿)</p> <p>第8回(6/4) 災害ボランティアのネットワーク(吉椿)</p> <p>第9回(6/11) ボランティアとフィールドワーク(吉椿)</p> <p>第10回(6/18)海外のボランティア①フィリピン(斎藤さん)</p> <p>第11回(6/25)海外のボランティア②イタリア(斎藤さん)</p> <p>第12回(7/2) 海外のボランティア③中国(吉椿)</p> <p>第13回(7/9) ボランティアと若者と働き方(山村、吉椿)</p> <p>第14回(7/16)災害とジェンダー(斎藤さん)</p> <p>第15回(7/23)NGOとボランティア(吉椿)</p> <p>*その他、 7/13、7/20 社会貢献学入門(履修者神戸学院大学62名、その他、東北福祉大学、工学院大学)で講義(吉椿)</p>
--	---

事業名	4-(4) 《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講師派遣 <p>前年度と同様、派遣依頼があれば行う。</p> <p>* 今年度の予定</p> <p>1月 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>今年度も、組織理事として理事会や常任理事会への出席、KANSAI-SDGs市民アジェンダ、ワンワールドフェスタ for Youthなどのイベントへの参加を継続し、関西の市民社会や NGO の一員として連携する。その他、能登半島地震支援に関する情報共有</p>

	<p>も行う。また、関西 NGO-JICA 協議会の担当を務め、JICA や NGO のユース世代の交流の場なども検討している。</p> <p>* 2023 年度の主な動き</p> <p>5/1 理事会に出席(吉椿)</p> <p>5/11 総会に出席(山村)</p> <p>12 月 ワンワールドフェスティバル for Youth でブース出展(山村、吉椿)</p> <p>② コープこうべとの連携</p> <p>例年通り、総代会への出席、講演会、報告会やイベントなどへの積極的な参加、ハート基金運営委員会での報告などを引き続き行う。また、今年度もトルコ・シリア地震や能登半島地震の中長期的な復興支援で連携していく。</p> <p>また、資金調達のワーキンググループとしても、コープさんに協力関係を深めていく。</p> <p>2022 度より地域活動推進部統括部長の冬頭佐智子さんに CODE 理事を務めていただいており、トルコ・シリア地震支援や能登半島地震などにご協力いただいている。</p> <p>* 主な動き</p> <p>5/2 理事会会場の下見(冬頭理事、吉椿)</p> <p>③ 近畿ろうきん</p> <p>2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付先団体 CODE は選出されており、年間約 20 万円ほどの寄付をいただいている。</p> <p>2019 年より毎年、CODE 寺子屋の事業として、若者、SDGs や難民などのテーマでセミナー開催に協賛していただいている。</p> <p>2023 年度は、CODE 寺子屋セミナー2023 として、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをゲストに「災害・紛争…混沌とした時代に私たちはどんな未来を選ぶのか」と題して、紛争地や被災地の人たちの物語を写真を交えて講演いただいた。(参加者 65 名)</p> <p>また、CODE 未来基金のウクライナ子守りボランティア活動に対して、近畿ろうきんの NPO アワード助成金の優秀賞を受賞したことで、学生ボランティアの交通費などに充当する。</p> <p>* 主な動き</p> <p>6/6 近畿ろうきん笑顔プラス贈呈式に出席(島村さん、吉椿)</p> <p>1 月 寺子屋セミナー2014 を共同開催</p> <p>④ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>2023 年度は、トルコ・シリア地震支援のユース交流や能登半島地震支援などで、ワカモノヂカラの方々と、関西 NGO-JICA 協議会やワンワールドフェスティバル for Youth などを通じて他の NGO の学生インターンなどとも連携していく。</p> <p>⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害</p>
--	--

	時の情報交換などで連携していく。
--	------------------

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン / NGO ネットワーク ABAG(セブ市) ・中国 / NGO 備災センター(新安世紀教育安全科技研究院)(四川省成都市) ・国際アライアンス「IACCR」(事務局:中国四川省成都市、14の国と地域) ・ネパール / シエルパ村落開発改善委員会(ソルクンブ郡グデル村シャーレ地区) ・インドネシア / リナさん、(故エコ・プラウォトさん夫人) (ジョグジャカルタ特別州) ・トルコ/ハサン・デニスさん(ACEV コーディネーター)(イスタンブール) メハメット・ドグルさん(Active Participants Association)(ガジアンテプ) ・トルコ/ セルバイさん(NGO Dayanışma Gönülleri) (ハタイ県デフネ) <p>上記のネットワークとの関係をそれぞれの事業を通じて深めていく。</p>

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>CODE 寺子屋は、この数年近畿ろうきんの協賛を得て、関西 NGO 協議会と共に、「若者」、「SDGs」、「難民」などをテーマに開催してきた。</p> <p>* 2024年度も例年通り関西 NGO 協議会(KNC)や近畿ろうきんと協働で、CODE 寺子屋を開催する。2024年度は阪神・淡路大震災30年の節目もあるので、災害・紛争など世界的な課題をテーマに市民主体で議論する場を提供する。</p>

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時

実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>●今年度の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・贊助会員の拡大(現在の会員の状況:正会員 28、贊助会員 123 計:151) 2023 年度の贊助会員は、123 名。2023 年 2 月のトルコ・シリア地震などで注目を集めたりもあり増加した。引き続き CODE の活動を丁寧に発信することで贊助会員の数を増やしていく。最新号 CODE レター Vol.74(2024 年 4 月 24 日発行)は、1420 部を発送している。 ・CODE レター発行・送付 各号約 1000 部を発送していたが、2023 年のトルコ・シリア地震でたくさんの方々に寄付をいただいた事から現在は約 1400 部発送している。これによって贊助会員の増加を図る。 ・リーフレットのカラー刷新 広報ワーキングや未来基金の若者たちでリニューアルを進める。 ・SNS を活用した広報 CODE レター発行など従来の紙ベースものに合わせて、学生ボランティアさんの協力でフェイスブック、インスタグラムなどの SNS を積極的に活用していく。学生インターン、ボランティアなど未来基金の若者たちにもサポートしていただく。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸学院大学、親和大学の連続講義は、別途 4-(1)、4-(2)、4-(3)に記載 * 2024 年の主な動き <ul style="list-style-type: none"> 4/24 石川県能登半島地震に学ぶ防災フォーラム(おいしい防災塾)(山村) 5/17 MBS ラジオ「ネットワーク 1.17」に出演(南さん、山村) 5/18 FM わいわい「街ブラ～人と街とくらしを探る」に出演(山村) 5/29 兵庫県立大学商科キャンパス「災害支援とボランティア」で講義(山村) 5/30 中国大学・中国災害防御協会の専門家と意見交換(室崎代表、吉椿) 5/31 大阪大学人間科学部共生社会論特講 1 で能登半島地震の講義(吉椿) 7/11 葦原高校「総合的な探求の時間」で講義(吉椿)

	7/19 龍谷大学で講演(吉椿) 7/25 グリコユニオン研修会で講演(吉椿) 10/19 神戸学生青年センター「食料環境セミナー」で講演(吉椿)
--	---

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行 メーリングリスト、SNSは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年3回、各号1500部を発行し、約1000部を発送する。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌:CODEレターは、年3回、4月、7月、12月頃に発行予定。 ・メーリングリスト、FACEBOOK:逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、インスタグラム:学生インターン、ボランティアさんによって逐次発信 今年度も、CODEレター、ML、SNSを活用して広報を充実させる。 HPの英語版の更新も進める。

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1)「組織基盤の強化に関して」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 会計顧問業務</p> <p>2023年度から税理士の今中一寿さんの後任として、沖村朝之さん(沖村朝之税理士事務所:神戸市中央区)ご協力いただき、会計のあり方や組織基盤を見直し、認定NPO法人の申請の準備を整えていただいている。2024年は、沖村税理士と事務局で認定NPO申請に向けて準備を進めていく。</p> <p>② 事務所移転</p> <p>家主の意向により2023年末までに事務所を移転する報告で物件などを探してきたが、2024年1月の能登半島地震が発生した事で退去期限を延長してもらっている状態である。同居している被災地NGO協働センターと今後について協議し、新たな移転先を探す。</p>

	<p>③ ワーキンググループによる組織基盤の強化 2024 年度も、以下の担当で CODE の事業を進めていく。</p> <p>* CODE ワーキンググループの役割と担当</p> <ol style="list-style-type: none">1. ガイドライン: 棚木理事、山口理事2. 人材育成: 宮本副代表理事、堀之内理事3. 資金調達: 冬頭理事、西田理事4. 広 報: 堀之内理事、西海理事5. 支援プログラム: 災害発生後、その都度開催 <p>* 室崎代表理事、村井理事は全部門に参加 (2023 年度末時点)</p>
--	--